



生薬についてスパイスを使って学ぶ中学生を見守る浅田和伸
官房審議官(右端)＝岐阜市大学西、岐阜薬科大

岐阜市の才能開花教育講座

文科省審議官が視察

岐阜市教育委員会の「フティッド」が3日、教育プログラム「土曜岐阜市大学西の岐阜薬科大で開かれ、市内の中学生が薬学について学んだ。文部科学省の浅田和伸大臣官房審議官も視察に訪れた。

プログラムは中学で

教える領域を超えた高度な学びに触れることで生徒の資質を引き出すのが狙い。今回は123人の応募者から抽選で選ばれた生徒42人が参加。政府の教育再生実行会議で有識者メンバーを務めた細江茂光市長が同プログラムを紹介したこともあり関心を持った浅田官房審議官が駆け付けた。

生徒は3班に分かれて同大の教授や院生らから指導を受けた。実際にマウスに催眠薬など薬物を投与する様子を観察したり、唾液だけで溶けて飲める人に優しい製剤づく

りの研究について学んだり、カレーなどスパイスを通して生薬への理解を深めた。浅田官房審議官は「小中学生の能力をどう引き出し伸ばすかを考える中で岐阜市のプログラムは参考になる。とても良い取り組み。今後もより多くの子にチャンスを与えてあげてほしい」と好評価。

案内した細江茂光市長は「さまざま分野のリーダーを育てていくのが目標。今後、さらに発展させていく上で文科省の視察は大変ありがたい」と話した。

(古家政徳)

研究者が中学生に高度授業

岐阜市の中学生向け教育講座「土曜日の才能開花教育 ギフティッド」の本年度四回目の授業が三日、同市の岐阜薬科大であった。希望した生徒約四十人が参加し、薬の役割や製剤方法などを大学教授や学生から学んだ。生徒たちは三班に分かれて学内を見学。薄さ一ミリ以下のフィルム状の薬を扱う研究室では、錠剤が飲み込めない患者に効果的であることを聞いた。

マウスの解剖にも立

岐阜薬科大でギフトィッド講座

ち会い、内臓の位置や色の違いに見入った。境川中一年の村本裕紀さん（こは）は「マウスは麻酔を打つとすぐ眠ってしまい反応が興味深かった。将来は薬の研究をしたい」と話した。この日は、文部科学省の浅田和伸大臣官房審議官が細江茂光市長とともに授業を視察。浅田審議官は「本物の研究者と触れ合うのは、子どもにはとても良い経験だ」と感心していた。

ギフトィッドは、多



様な分野の専門家を講師に迎え、中学生の可能性を引き出すのが狙い。毎回受講者を替えて本年度は来年三月まで残り六回ある。

(近藤統義)

フィルム状の薬の作り方を教わる中学生たち＝岐阜市の岐阜薬科大で